

2021年12月22日（水）

老球の細道646号

第53回県ミニバスケットボール大会（第1回県U-12ウインターカップ）観戦記

会津バスケットボール協会 室井 富仁

「岡目八目」という言葉がある。問題の渦中にある本人たちよりも、それを見ている第三者の方が上手く判断できる意味で使われている。語源は囲碁の世界から来ている。「岡目」は囲碁の対局を傍観者として見ることで、「八目」の「目」は碁盤の目や碁石の数え方で「対局する当事者は一手一手打つのに精一杯だが、これを脇から見ている人は八手先まで読んでいる」と言う意味である。

12月18日（土）あいづ総合体育館で行われた県ミニバスケットボール大会において、私は岡目八目まではいかないが、岡目二目くらいで男女の準決勝、決勝戦の観戦を楽しんだ。特に男子決勝戦に地元会津地区から「磐梯」チームが唯一残っていたので、今年の塩川に引き続き男子会津地区2年連続優勝なるかに興味満載であった。

磐梯は夏の県大会を優勝し、地区大会においても抜群の力を発揮して今大会は本命中の本命だった。しかし、勝負の世界は必ずしも強いチームが優勝するとは限らないところが面白い。勝負の世界の奥深いところである。ミニの世界もプロの世界も同じである。

地元との期待を一身に背負った磐梯は残念ながら決勝で負けてしまった。敗因は何か。これは当事者にしかわからないだろうが、私の岡目二目のレベルで見ていた感想は、対戦した小田倉ミニの戦略戦術が見事にはまったことだろうか。前大会の決勝で磐梯に負けているので、相手チームを十分に研究して今大会に臨んできたのだろう。磐梯のビックマンに対する攻略が見事にはまっていた。彼がボールを持つとダブルチームに行ってボールを放させ、別なプレイヤーにシュートをさせる。インサイドでプレイさせない。彼がディフェンスをしている時はファールトラブルを狙い積極的にドライブでアタックする。磐梯の強みが出せないでゲームは終了し、小田倉チームの予想外の圧勝で試合は終わった。

一方、女子の試合は二本松の断トツ圧勝で終了した。東京五輪の結果ではないが、改めてバスケットボールは身長ではなくてスピードがものを言うスポーツであることを、二本松は示してくれた。身長は小さいが、スピード、状況判断力が素晴らしく、終始オールコートマンツーマンで守り、ドライブのヘルプ時には積極的にダブルチームをしかけた。その後のローテーションも速く、多くのチームがターンオーバーやインターセプトの餌食にされた。そのハードなディフェンスからの速攻も展開が速く、アウトナンバーを確実に得点につなげていた。岡目八目で観戦した大会役員の方々の評価では、全国大会でも上位に食い込める実力じゃないかと皆驚愕していた。

厳寒、雪、コロナの中で献身的に頑張ってくれている大会役員には深く敬意を表したい。コロナ感染のために地元の選手たちに見せられなかったのが悔やまれる。

余談：12月21日、今日は「バスケットボール」の130回目の誕生日である。クリスマスのケーキを今日食べて、残ったのをクリスマスに食べてください。なんちゃって。